

平成 25 (2013) 年度 第 1 学期 国語科における授業実践記録

Record of Teaching Practice in National (Japanese) Language in the First Semester of SY2013

国語科

荻野聡・吉田睦・工藤裕子・石川直美・西村諭・宇佐見尚子・山根正博・杉本紀子

要旨

本校国語科では、MYP に基づいた指導を行っているが、1～4年に続く5年・6年次まで含め、細分化した目標を設定し、6か年の中で、学習内容・目標段階を螺旋状に繰り返すことによって力をつけるカリキュラムの構築を目指している。

どの授業・学習においても学習目標や評価の観点・基準が示されることは、生徒個人の目標を定めやすくする。と同時に指導者や教材が変わった場合にも最終目標やステップが変わらずに示されるので、学年間の連携がしやすい。今後はこれまでの実践の積み重ねから目標と評価の連関について研究を深めていくことが課題である。

本校では、1 学年から 4 学年において、日本の学習指導要領と並行して国際バカロレアのMYP (Middle Years Program) プログラムに基づいた指導を行っている。このプログラムでは、目標を細分化して生徒に提示するのが特徴である。5 学年と 6 学年はMYP プログラムの対象外ではあるが、その方向性の上にあると考え、4 学年までと同じように細分化した目標を設定し、6 か年の中で、学習内容・目標段階を、螺旋状に繰り返すことにより、着実に力をつけるカリキュラムを作り上げていきたいと考えている。

たとえば、発表学習においては、1 学年では、AOI (MYP における教科を超えた学習領域。「Area of Interaction」と名付けられ、「学習の姿勢」「人間的創意」「コミュニティと奉仕」「環境」「健康と社会教育」の5領域に分かれる) の「学習の姿勢」と関連させ、発表の基本である効果的な話し方と聞き方を学習する。3 学年においては、情報を効果的に活用し、それを分かりやすく伝える方法を学ぶ。最終学年である 6 学年では、国語表現の授業内で、主張にあった資料をどう提示し、いかに説得力のある発表をするかの工夫ができるようになる。

また MYP においては、4 学年で達成すべき目標に「多様なテキスト様式で、構成と言語固有の慣例を用いた作品をつくることができる」「考えと主張を、持続的で一貫性と論理性のある方法で構成して作品をつくることができる」がある。本校ではこれらの目標を 4 学年で終了するものとはとらえず、その後の 2 年間でさらに習熟・発展させることを目指す。4 学年でその目標に到達できなかった生徒も、続く 2 年間で到達することができる。

どの授業・学習においても、MYP においては、授業の冒頭あるいは年間の初期の段階で、その学習で目指すことや評価の観点・基準が生徒に示される。このような方法をとることで、学習者は自分がどこまで到達できたかを確認しながら進めるので、個人の目標も明確になる。また、指導者や題材が変わっても、最終的な到達目標や積み重ねのステップは変わらないので、学年間の連携がしやすい。

こういったことを踏まえ、各学年での実践を重ねながら、目標と評価の連関について研究を深めていくことが、今後の課題である。

参照資料として、今年度1学期に、1学年から6学年において展開された国語科の授業実践を表に示した。冒頭で述べたように、第1学年から第4学年まではMYPに基づくものでもあるため、MYPにおいて単元作成に必要とされている、AOIと、単元ごとのGuiding Question (Unit Question) を記載した。

AOIのどの領域に関連させるかは、各学年の授業担当者の判断による。基本的には常に「学習の姿勢」が基盤にあるが、教材で扱うテーマや学習活動によって関連する領域を判断している。また、単元ごとのQuestionは、生徒の実態や教材に応じて毎年担当者がその単元ごとに設定をし、生徒に提示しているものである。

図1 2013年度1学期 各学年実践授業単元一覧表

学年	科目	単元	教材	関連するAOI	Guiding Question (単元における主たる発問)・目標	
MYP対象学年	1	国語	小説	教科書 「風呂場の散髪」	健康と社会教育	大人になるとはどのようなことだろうか。
			小説	教科書 「兄やん」	人間の創造性	相手を思いやるとはどのようなことだろうか。
			説明文	教科書 「ものづくりに生きる」	コミュニティと奉仕	社会の中で働くことの意義とは何だろうか。
			討論	「ファシリテーションメソッドをいかけた話し合い」	コミュニティと奉仕	CS活動とは何のためにするのか。
			プレゼンテーション	スピーチ 「わたしのたからもの」	学習の姿勢	自分の意見を効果的に伝えるにはどうすればよいだろうか。
	2	国語	小説	教科書 「サーカスの馬」	人間の創造性	作品と作家とはどのような関係にあるか。
			取材	インタビュー	学習の姿勢	よりよいインタビューとは何か。
			説明文	教科書 「逃げることは、ほんとにひきょうか」	学習の姿勢	人の行動と心はどうつながっているのか。
			短歌	教科書 「短歌十五首」	人間の創造性	言葉の力とは何か。
			随想	教科書 「宇宙が叫ぶ—梵鐘・歓喜」	人間の創造性	創造の理由と過程はどのようなものか。
			説明文	プロセスの建築		
	3	国語	俳句	教科書 「俳句十五句」	人間の創造性	言葉が持つ世界とは何か。
			随想	教科書 「言葉の共有」	健康と社会教育	コミュニケーションを支えるものは何か。
			随想	教科書 「ケナリも花、サクラも花」		
			評論	教科書 「ディズニールランドという聖地」	学習の姿勢	具体・抽象とはどういうことか。
			意見文を書く	具体・抽象を備えた文章を書く 「コミュニケーションを阻害するものとは」	学習の姿勢	自分の考えを他の人によく伝えるにはどうしたらよいか。
	4 (高1)	国語総合 (現代文)	随筆	教科書「境目」	学習の姿勢	我々は世界をどのようにして認識しているだろうか。
			小説	教科書「待ち伏せ」	健康と社会教育	人は戦争において何と／誰と戦っているのだろうか。
			評論	「センス・オブ・ワンダーを追いかけて」	環境・学習の姿勢	我々が生きている環境を理解するにはどのような視点や姿勢を持てばよいだろうか。
	4 (高1)	国語総合 (古典)	紀行	奥の細道「白河の関」「立石寺」	学習の姿勢	時間とは何か。
説話			十訓抄「大江山」	多様な環境	常識と非常識。	
説話			宇治拾遺物語「絵仏師良秀」	健康と社会教育	プロフェッショナルとは何か。	

東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要

学年	科目	単元	教材	関連するAOI	GuidingQuestion(単元における主たる発問)・目標	
MYP 対象外の 学年	5 (高2)	現代文	随筆	考えることのおもしろさ		考えることのおもしろさはどのようなものか。
			評論	知識の扉		人間と文字の関わりにはどのような特質があるだろうか。
			小説	山月記		人間は自分の才能にどのように向き合うことができるだろうか。
	5 (高2)	古典	随筆	枕草子 「木の花は」「二月つごもりごろに」		美意識とは何か。
			故事	助長		政治には何が必要か。
			思想	韓非子		
	6 (高3)	現代文	評論	メディアは何を変えるのか?		テクノロジーは人間にどのような影響を与えるだろうか。
			評論	ハイテク化と人間のゆくえ		人間は自然とどのように向き合うべきだろうか。
			小説	舞姫		人間の主体性とはどのような様態を示すだろうか。
			評論	ことばとは何か		記号を通して人間はどのように外界にかかわるのだろうか。
	6 (高3)	古典	文学史	上代～中古の文学史		文学の発生・発展は、歴史的背景とどのように関わっているだろうか。
			物語	源氏物語「桐壺」		1000年生きる物語の魅力は何に由来しているのだろうか。 源氏物語の世界は、どのような表現によって形成されているだろうか。
物語			源氏物語「若菜」			
思想			論語		孔子やその弟子たちの目指した生き方・姿勢とはどのようなものであったか。また、現代の我々が学ぶべき点とはどのようなことか。	
	(古典講読)	日記	紫式部日記		人物評価の基準は時代や環境によってどのようにちがうだろうか。	
		評論	無名草子		源氏物語はどう受容されてきたのか。	
		物語	源氏物語「夕顔」		人物設定と物語の展開はどのように関係しあうのか。	
	(漢文講読)	文章	「節説」「捕蛇者説」 「養魚記」「漁父辞」		自己と社会と時代を見つめる。	
		漢詩	「石壕吏」			
		思想	諸子百家			
6 (高3)	国語表現	論文の基本	小論文の基本的構成		伝える力を持つ文章とはどのようなものだろうか。	
		論証	根拠をもって論証を組み立てる		どのようなデータや資料が論証を組み立てるために有効だろうか。	
		プレゼンテーション	口頭での効果的な発表とは		口頭発表ならではの工夫について考え、発表してみよう。	
		表現の工夫	論理的な文章と修辞法		より論理的な文章にするためにはどのような表現の工夫が必要だろうか。	

Abstract

TGISS provides national language lessons based on the MYP. With well-defined objectives not only for the 1st to 4th grade, but also for the 5th and 6th grades, we seek to build a curriculum to ensure the development of necessary skills in students throughout the 6 years of learning, advancing through progressively-arranged learning contents and related objectives.

A clear indication of learning objectives, assessment perspectives and criteria for each lesson and learning stage facilitates the setting of objectives for individual students. At the same time, vertical coordination between grades is facilitated so that the final objectives to be achieved and the steps for achieving them need not be altered even if the teachers or teaching materials should change. Our challenge now is to conduct further research on the linkage between objectives and assessments, building on the practical experience accumulated over the years.